

大久保利通「大久保利通書簡」

明治6（1873）年10

月17日

小臣事、無量の

天恩を蒙り、殊に殿下の

懇命に預ること亦不浅、実に

感佩する処に候、然るに今日に

至、恐縮の至に不堪候得共、

奉職の目的難相立、辞表

差出候、暗愚にして漫汚

重任 候儀、今更赧顔至極

に御座候間、今日の事、何様の

御沙汰を拝承仕候ても、断然

決心候付、速に御放免

被下候様万祈 仕候、乍去、

国家の事、度外に置候

心事毛頭無御座候間、

若禍端相開候はゞ、兵卒

とも相成、一死を以、万分

の一を報し度たきびちゆう微衷に付、

其節に臨み候はごすいれん御垂憐

を賜り候様、今よりねがいたてまつり奉願置候、

必ず進んで御依頼可奉もうしあげ

申上候、誠惶々々、たてまつるべく

十月十七日 利通

実美公閣下

尚々、過日、被下候御書取、くだされ

乍憚返上仕候付、御落手はばかりながら

可被仰付候おおせつけられるべく